

●**堤防管理などの勉強会 23日** 13時30分から開始され、里山の会からは播川、中西、伊藤青代、深田、山田、山村が出席、河川財団から野口所長以下2名、淀川河川事務所から深沢さんはじめ3名が出席されました。最初に野口氏から堤防管理の現状について報告があり、続いて山村から希少植物の現状そして管理保全についての報告を行い質疑応答が行われました。今回は堤防の希少植物の維持管理について、現状を抑えることとどのように管理や保全を進めていくことが最上の手段なのかについて、勉強するとされました。里山の会としては27種の希少植物90か所以上の生育地、そして広範囲に及ぶ保全管理地、加えて急傾斜地での草刈り作業と運び出しという困難な点を強調しました。

●**カスミサンショウウオの調査 24日 4匹確認** 参加者は桜谷先生他、野村、金田、深田、伊藤、青代、有田、安永の皆さんでした。この日は一般参加者を公募するのではなく、里山の会の有志、特に昆虫観察に関心を持っておられるエキスパートの出席を得て徹底的な調査を行いました。1月22日に引き続き成体が4匹発見できました。やはりエキスパートの選りすぐりだけあって、なかなかの成果がありました。これ以上の調査探査を行うことは生息地の破壊につながると判断して4匹の発見を機に引き上げることになりました。野村さんの素晴らしいカメラワークできれいに写真撮影が行われました。そして水中で動く撮影にも成功していただきました。聞くところによりますと、発見することがとても困難です。その上自然のまま水中で活発に動く成体の撮影に成功することは中々できないものだという事です。皆さん二重三重にすごい成果が獲得できた調査会でした。成果を総合的に判断しますと、二回の調査会で産卵前の成体を合計6匹の確認ができたことは、去年の産卵確認と併せて考えると、間違いなく確実に生息している素晴らしい生息地と判断できます。従って、以後産卵の時期までできるだけ正確な調査記録を連日測定することが必要となりました。なかなか連日となると難しいようですが、山城地域で間違いなく生息し、産卵も確実にされるこの場所の記録は貴重な資料となるものです。ご協力をお願いいたします。

●**木津川土砂部会 24日 中書島で開催** 議題は竹蛇籠設置以後冠水を数回経験したこと。そのうち1600トンの最大の増水を経て蛇籠の耐久性はどうなのかが検証され、報告されました。また地形の変化についてもワンドの形成とその変化が報告されました。引き続き崩落地の復旧工事の報告とその後の流路対策についての方向性が検討されました。

●**自然環境保全京都府ネットワークの結成総会とシンポ 25日に開催** 125人の出席があり、里山の会からは、上島、播川、小川、森、金田、山下、中榮、日下さんが参加いただきました。今週は連日の重要な会議が続きました。去年の里山の会の総会での発言、京都府に新しい博物館の建設をという声をきっかけにして、一年間準備を行って、2月25日(土)に「自然環境保全京都府ネットワーク」が西織会館で結成されました。参加者は予想をはるかに超える125人の出席があり、これだけでも大成功です。結成総会の議長に山村が指名され、規約 予算 役員体制 事業計画が原案通り決定され、会長に竹門先生を選出副会長や会計の選出も順調に決まり里山の会からはお世話になってきた光田重幸先生が監査に、そして事務局長に山村が選出されました。

●**京田辺市府営団地周辺のゴミ拾いを15年間実施されてきた中西正和さん(77歳)を訪ねお話を伺ってきました。**中西さんは退職と同時に健康のためにと、散歩を実施、約2時間毎日の日課として2年間続けておられました。毎日コースを歩いているうちに視野が広がって、足元のゴミが気になりだしました。同じ歩くのならこのゴミ拾を行ってやろうと気づき、ゴミ拾いを始められ

たそうです。健康のために12000歩を2時間として毎日の日課とされています。時々あなたは市役所から指名されているのでしょ、あちらにゴミが残っていますよと指示されることがあります。又ポイ捨ての煙草を拾ってくれ、と指示する人があって、少し気分を壊す場面に時々出会います。しかし気分の悪い中でも、子どもたちから感謝の言葉をかけてくれるのが一番うれしいです。子どもの声を聴くと元気が出ますとおっしゃっていました。行動する時間が違って顔を合わすことはありませんが、ゴミ拾いをしてくれる人が増えてきて、随分ときれいになってきていますとおっしゃっていました。ご苦労様です。

●**山城北土木事務所主催山城ボランティア交流会** 里山の会が基調講演 60人集合 城陽市文化パーク 乙訓郡と山城地域で活躍する道路と川での清掃ボランティアの交流会が開催されました。基調講演としてやましろ里山の会の活動紹介を通じて、高齢化している団体の元気を復活させられるお話をとリクエストされました。私の元気の元として戦後の日本で、最初の世界チャンピオンになった卓球女子の西村登美江さんが語ってくれた「為せば成るなさねばならぬ何事も、なさぬは成らぬの始めなり」と「少年老易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」を座右の銘とし、努力と置き換えて今日まで生きてきたことを枕詞にして、お話をを行った。

●**第21回自然と環境講演会 多数のご参加を** いよいよ明後日に迫ってきました。会員の皆様ぜひご参加ください。お待ちしております。今回の講演会は松井正文先生のお話に期待が大きくなってきています。二回のカスミサンショウウオ調査会で合計6匹の発見は、重複していたとしても間違いなく4匹が生息していることが証明されております。これからこの保存についてどのように取り組んでいけばいいのかについて学ばなければならないと思っています。京都府の自然環境保全課からの報告にも大きな期待が膨らみます。そして地元京田辺市の環境課長さんからのご挨拶をいただくことが実現しました。頼もしいことです。ご友人にもお誘いの上こそぞってご参加お願いいたします。木曜日2日読売新聞の朝刊で案内記事を掲載いただきました。

●**来年度の里山農園の作付け 一時中止を検討** 里山農園の中心を担っていただいている大村さん森島さんそして澤江さんたちは、長年ご奮闘をいただけてきました。栽培を開始して約7年、開墾を開始して10年が経過しています。昨年はササユリ問題の処理にかなり時間を割かなければなりません。これも大きな原因となったのではないかと思われますが、これ以上栽培を継続するには元気とやる気を奮い立たすことが出来なくなってきたとの申し出がありました。1日の事務局会議で話題に取り上げ検討しましたところ最終決定ではないのですが、実情が明白になって、大きな精神的にも肉体的にも負担になってきている以上無理強いを避けなければならないだろうと理解がありました。10年間の里山農園運営に幕を下ろすのか、それともどう運営を図っていくのか深い議論を重ねました。新年度の活動方針に於いてこれまでかなり重点を置いてきた里山農園の存廃にかかわることですので、非常に重要な課題です。これまで中心を担ってきた大村さん森島さんからまとめをいただいて、それをもとに検討を深めることになりました。会員諸氏からのご意見を是非ともお寄せください。お待ちしております。

●**大東大学生来所 27日** 京田辺市の街づくりシンポに於いて全国の学生たちによる研究発表のための現地調査に同大学の法科の学生2名が京田辺市職員のガイドで来られました。里山の会からは深田、播川、大村、森島、山村が対応しました。京田辺市の豊かに残る自然を生かし農業の意欲を持つ学生の受け入れについての課題や問題点について話し合いました。特に普賢寺地域の打田をモデルにしたもので、区長の榊さんも出席されました。